【2015/4/7　シンポジウム「東京はロンドンを超えられるか」】

オリンピックと持続可能な都市づくり

自然エネルギー財団　常務理事　**大野輝之**

オリンピックによる環境破壊への批判（1970年代から）

短期間の大会のための巨大な施設建設が、
自然環境を破壊することへの批判が強まる

・1976年　米コロラド州デンバーがオリンピックを返上
・1992年　アルベールビルオリンピックには特に強い批判

「新しいホテルやリゾートに供給するために、貴重な水の蓄えを使い、自然棲息地を破壊し、ローヌ川上流を「運河化」した。

覆いのないむきだしの焼却、焼却プラント、埋め立て用地ゴミなどの問題も指摘しなければならない」

１９９２年　リオの地球サミット
持続可能な開発

・同年のバルセロナオリンピック
「地球への誓い」

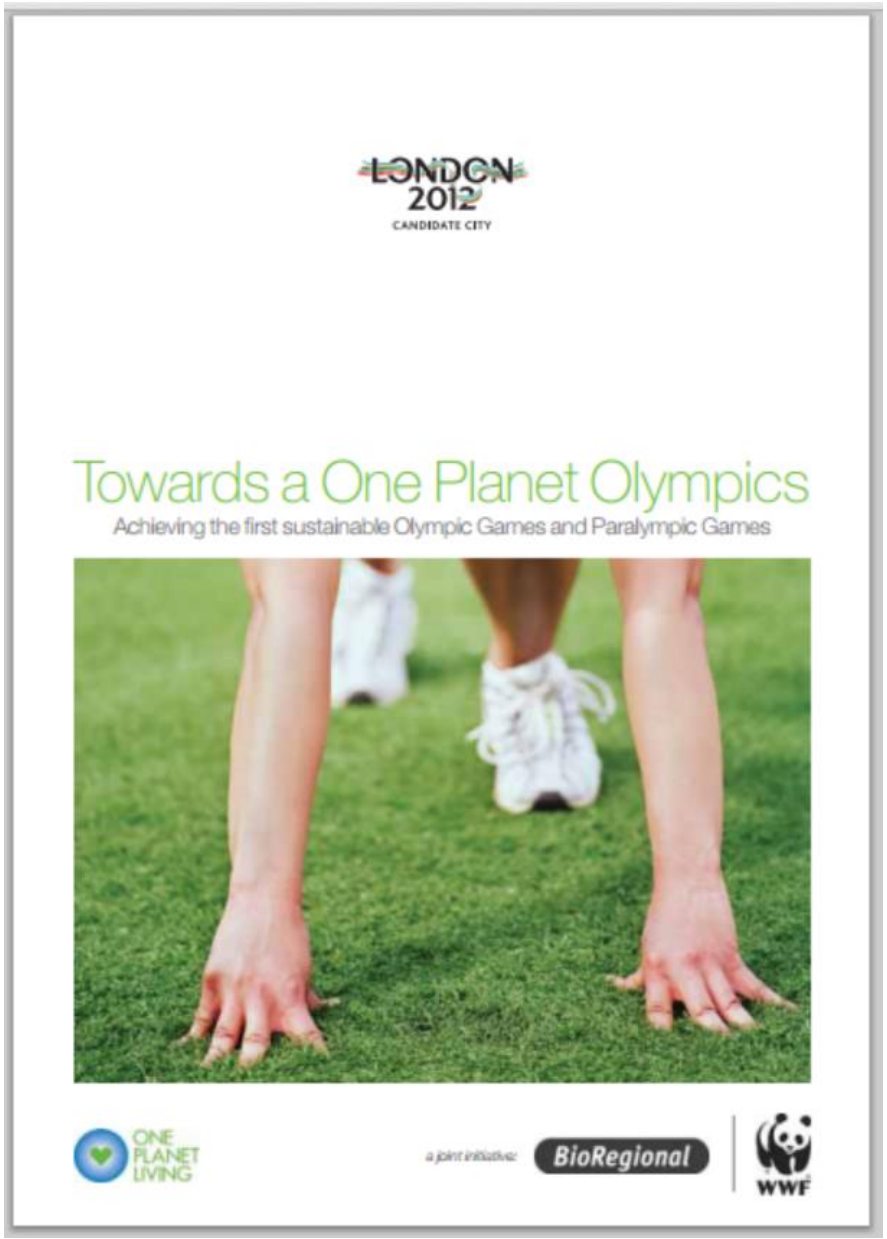
・１９９４年　オリンピックコングレス
「環境は、オリンピック精神の第３の柱」
・１９９６年　オリンピック憲章を改正

二つの「グリーンゲーム」

Lillehammer 1994, Norway

Sydney 2000, Australia

地球１個分のオリンピック



2016年立候補ファイル

テーマ6：環境及び気象

Environment and meteorology

6

IOCの主な質問

- 再生可能エネルギーなど、大会で導入する環境技術
- 自然環境・文化遺産の保護・強化
- 環境の保護・向上のための戦略

アピールポイント

環境最優先のオリンピック

① 環境負荷の最小化
（世界初のカーボンマイナスオリンピック）
② 自然と共生する都市環境の再生
③ スポーツを通じた持続可能な社会づくり

概　要

① 環境負荷の最小化（世界初のカーボンマイナスオリンピック）

最先端の環境技術を駆使し、大会に伴って発生するカーボン以上の分量を削減

⇒ 太陽光や風など、自然エネルギーを活かした施設
⇒ 高効率化・省エネ技術導入、再生可能エネルギー活用
⇒ 公共交通機関活用、最新鋭の無公害・低公害車など、環境にやさしい交通・輸送システム

② 自然と共生する都市環境の再生

- 「海の森」をはじめ、1,000haの緑を新たに創出
- 水と緑の回廊に包まれた都市・東京を再生
- 東京湾のさらなる水質改善、生物多様性の維持発展

③ スポーツを通じた持続可能な社会づくり

- オリンピアンやアスリートによる環境キャンペーン、環境学習
- 環境にやさしい製品やサービスを優先的に使用
- バックヤードツアー、環境展示等、大会そのものを環境技術のショウケースに

環境を最優先し、世界初のカーボンマイナスオリンピックを実現する大会

05

環境

最高の環境基準を推進するためのプラットフォーム

- 都市の持続可能性の新しいモデル
- 環境への影響が少ない省エネルギー型の会場配置と施設整備
- 都市の中心に新しい緑の空間を創出
- 循環型の大会運営